令和2年度 あしたのまち・くらしづくり活動賞　主催者賞

つながりの支え合いから花開く日向
～多様な人とのご縁がつくる「地域で暮らす幸福感」～

山形県酒田市　日向コミュニティ振興会

1. きっかけ

山形県酒田市日向地区は雄大な鳥海山を眼前に望む自然豊かな魅力あふれる地域である一方、過疎化・高齢化が進む条件不利地域でもある。

日向コミュニティ振興会（以下コミ振）は、日向地区に点在する12の集落（自治会）に暮らす住民の共同体（地域運営組織）で、平成21年4月に、行政の一組織である公民館から、住民自治組織であるコミ振に衣替えする形で誕生した。

時を同じくして平成21年3月に日向小学校が閉校。50畳一間の公民館から小学校を改修したコミュニティセンター（以下コミセン）に拠点を移すことになったが、事業をこなしていく中で、いつしか「地域づくりとは何だろう」と壁にぶつかった。そんなときに（平成23年度に）、東北公益文科大学（以下公益大）の小関久恵先生の「地域で暮らす幸福感」という出前講座を聴き、これからの地域づくりに踏み出すこととなった。

2. 地域支え合いワークショップ（行政、大学、事業者等とのご縁）

その翌年には、酒田市や酒田市社会福祉協議会、公益大と連携して、地域の現状や課題を知り「地域ではどんなことができるのか」について話し合う地域支え合いワークショップに取り組み、そこで浮かび上がった課題の解決や地域資源の活用を目指して「地域づく

平成28年 にこにこ日向計画ワークショップより（平成23年度より毎年WSを開催）

り」に取り組んでいくことになった。

【取り組みの成果】

・住民同士の対話により自分だけでは気づかない地域課題や資源に気づき、自分事としてコミ振の事業に関わる人が増えた。また、行政や大学、社会福祉協議会等とのつながりが生まれ、協働の下地ができた。

・これをきっかけに、日向地区では住民同士の対話型ワークショップが当たり前に行われるようになり、住民同士の縁が深まった。

3. 地域支え合い除雪と労力交換（ボランティア、克雪専門家、他地域等とのご縁）

前述のワークショップをきっかけに様々な地域づくり活動が生まれたが、「日向ささえあい除雪ボランティア」が一番大きく育った活動である。

地域住民の主体的な取り組みを補完する形で、他地域からボランティアを募集。平成24年度から始まったこの取り組みは、これまで延べ22回を数え、地域にとってとても大事な活動に育った。

また、平成27年度には国土交通省の克雪体制支援調査事業に採択され、克雪に関する専門家の方々に出会うことができ、雪かき道場やシンポジウムの開催などにつながった。

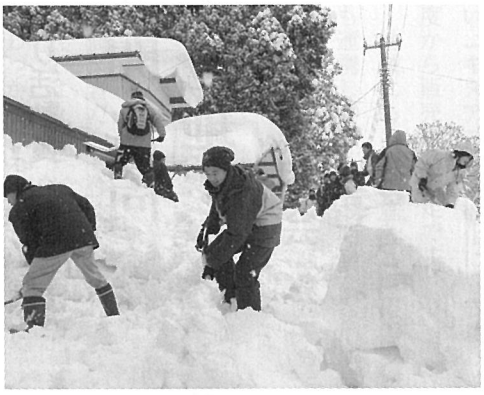
加えて、この事業をきっかけに、鶴岡市三瀬地区とのつながりが生まれ、冬は三瀬地区から日向地区の除雪サポートに、夏は日向地区から三瀬地区の空き家の片付けサポートにという協力体制（労力交換という仕組み）が出来上がった。

【取り組みの成果】

・地域住民でも知らない豪雪地帯の大変な暮らしに気づくことができ、地域支え合いの象徴的な活動となった。

・地域の中学生の参加により、多世代の交流の場となった。

・除雪後の交流会（昼食会）で、餅つき等で参加者をもてなす（感謝の気持ちを表す）ことで、市街地と中山間地との交流の場となった。



平成25年～ 日向ささえあい除雪ボランティア

・同じ課題を持つ地域とのつながりや、弱みを補完し合う地域間交流が生まれた。

平成29年～ Niconicoマルシェ

4. 外から来る人もウエルカム（地域おこし協力隊、大学生とのご縁）

日向地区は、地域住民同士が話し合い、主体的に地域づくりに取り組んでいることが評価され、平成27年度に酒田市で初めて地域おこし協力隊を受け入れたが、今では日向地区にとって欠かすことのできない存在となっている。現在は、3人目の協力隊が活動中である。

また、日向地区の地域づくりは、当初から公益大の協力があったからこそ今に至る、と

言っても過言ではない。大学（学生）は絶好の学びのフィールドを、地域は教員の専門的なアドバイスや学生の若い活力を、それぞれ得ることができるwin-winの関係となっている。

【取り組みの成果】

・卒業した協力隊員は、日向応援団の一人として、今でも地域の催しに参加してくれている。

・3人目（現役）の協力隊員は、地域内で起業し雇用も生み出している。

令和元年7月 日向里かふぇ（コミュニティカフェ）オープン

・学生がワークショップ等に参加してくれることで、場の雰囲気も和み、地域住民が気づかない視点を提供してくれる。

・日向地区の祭りやマルシェなどが、学生の学外活動の場となっている。

・日向地区で学んだメンバーを中心に、学生活動団体が立ち上がり、現在も活動している。

5．日向里かふぇ（大企業とのご縁）

株式会社良品計画の方が、酒田市内を視察する中で、たまたま日向コミセンに立ち寄り、豊かな自然に囲まれ、小学校の面影を残すコミセンに好感を持ったことで、コミュニティカフェを創ろうと話が進んだ。

良品計画が空間デザインの監修を、酒田市が資材（資金）提供を、そして地域住民と日向応援団の皆さんが壁や家具類のＤＩＹをそれぞれ担った、三者協働の好事例となった。これまで積み重ねてきた取り組みがカフェの運営につながっている。

【取り組みの成果】

・地域住民手作りで改修工事を行ったことで、自分が創ったカフェとして感じてもらえた。

・大企業との連携が効果的に作用し、多くのお客様を迎え入れることができた。これまで日向地区を訪れたことのない層に、日向地区の魅力を感じてもらうきっかけになっている。

・他地域に転出してしまったかつての地域住民が家族を連れて帰ってきて、当時をなつかしむきっかけになっている。

6．これからに向けて

以上に紹介した活動には、当時「将来の夢」でしかなかったものも多い。多様な人とのご縁が、地域づくりにつながったことは事実だが、そのご縁を引き寄せたのは、間違いなく主体的に頑張る日向地区の皆さんの姿勢・行動である。いつも笑顔で前向きな日向地区の皆さんの人柄・雰囲気がそうさせた。

公益大の小関久恵先生は「幸福は、与えられるものではなく、自分がつくるものである」と教えてくださった。地域住民が地域のことを自分事として考え、主体的に関わる活動だからこそ、地域で暮らす幸福感を得ることができる・・・

日向コミ振の小松会長と工藤事務局長は、決して気負うことなく自然体でこう話す。「これからも、集まることで生まれる笑顔や、話すこと、参加することで生まれる学びを大事にし、支え合い、補い合う地域づくりを続けていきたい」と。

（酒田市職員（まちづくり推進課）松永隆）